

## 1. 目的

本学は、建学の精神「言語を通して世界の平和を」に基づく教育目標を実現するために、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つの方針を定めて教育活動を行い、継続的な教育の質保証と改善に努めます。そのため、これらの方針の達成状況、学生の学修成果並びに本学の教育効果について、多様な尺度・指標や測定方法に基づいて点検・評価を行います。

### 1. 学修成果・教育効果を可視化する対象

- (1)測定する対象は、
  - (a)学生本人の学修成果
  - (b)大学の教育効果
- (2)可視化した学修成果並びに教育効果を公開する対象は、
  - (a)学生本人（および保証人）
  - (b)大学（および外部）

### 2. 学修成果・教育効果を可視化するタイミング

- (1)入学前・入学直後：アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証
- (2)在学中（単位認定・進級判定・退学勧告）：カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証
- (3)卒業時（卒業後）：ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証

### 3. アセスメント方法と検証体制

大学としての評価方針を構築し、学位プログラム別に「全体集計」と「個別集計」においてアセスメント指標を定める。アセスメントの結果は、IRデータとして学内で共有し、学修成果並びに教育効果を点検・評価する。

（注）博士後期課程は、授業科目レベルでのアセスメント指標はない。

[検証体制]

#### (1)大学全体レベル

内部質保証の責任機関である点検・評価委員会が、全学的な質保証という見地からアセスメントの結果を検証する。検証結果は、本学の現状把握、全学的な入試や教育の改革・改善、学生の学修・研究活動の支援等に活用する。

#### (2)教育課程レベル

3つのポリシーをはじめとして、教育課程や学生指導・支援等の方向性を具体的に検討する機関である大学院代表者会議が、教育課程の有効性という見地からアセスメントの結果を検証する。検証結果は、教育課程の改善・改革等に活用する。

#### (3)科目レベル（博士前期課程のみ）

個々の授業ごとに担当教員が、シラバスに照らしてアセスメントの結果を検証する。検証結果は、授業内容・計画・方法の改善・改革に活用する。

博士前期課程のアセスメント指標

	入学前・入学直後 (アドミッション・ポリシーの検証)	在学中(単位認定・進級判定・退学勧告) (カリキュラム・ポリシーの検証)	卒業時(卒業後) (ディプロマ・ポリシーの検証)
全体集計	入学試験結果(入学定員充足率、受験者倍率)	単位修得状況 除籍・退学率、休学率 学生授業評価アンケート(科目群集計) 学会・シンポジウム等発表実績(国内外) 京都外国語大学 大学院紀要「言語と文化」 中間発表(修士論文、個人研究成果報告書)	学位授与率(標準修業年限内) 進路状況(就職・進学) 免許・資格取得者数 コース専門科目の成績 学会・シンポジウム等発表実績(国内外) 修士論文、個人研究成果報告書 修了時アンケート
個別集計		各科目の成績 学生授業評価アンケート(担当科目) 出席状況(担当科目)	

博士後期課程のアセスメント指標

	入学前・入学直後 (アドミッション・ポリシーの検証)	在学中(単位認定・進級判定・退学勧告) (カリキュラム・ポリシーの検証)	卒業時(卒業後) (ディプロマ・ポリシーの検証)
全体集計	入学試験結果(入学定員充足率) 博士論文研究計画書	単位修得状況 除籍・退学率、休学率 学会・シンポジウム等発表実績(国内外) 京都外国語大学 大学院紀要「言語と文化」 第一次発表(博士論文の概要) 第二次発表(博士論文の主要な内容)	学位授与率(標準修業年限内) 進路状況(就職・進学) 学会・シンポジウム等発表実績(国内外) 博士論文

(注)アセスメント指標の基準日、集計対象、集計方法等は別に作成。

(注)アセスメント結果の検証サイクルは、別に作成。

博士前期課程のディプロマ・ポリシーに定めている修了時に身につけるべき能力とアセスメント指標の対応関係

	修了時の学修成果	
	言語文化コース	実践言語教育コース
アセスメント指標	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジア、観光文化研究を軸にした言語・文化・観光の専門的知識や、国際社会に貢献できる専門的能力の修得	創造的かつ柔軟な対応力を備えた英語教育または日本語教育のスペシャリストとしての能力の修得
学位授与率（標準修業年限内）	○	○
進路状況（就職・進学）	○	○
免許・資格取得者数		◎
コース専門科目の成績	◎	◎
修士論文、個人研究成果報告書 ※論文評価結果は、「論文審査要旨」に記載	◎	◎
修了時アンケート	◎	◎

博士後期課程のディプロマ・ポリシーに定めている修了時に身につけるべき能力とアセスメント指標の対応関係

	修了時の学修成果	
	言語文化領域	言語教育領域
アセスメント指標	最新の学術研究の探求を通じた、言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力の修得	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力
学位授与率（標準修業年限内）	○	○
進路状況（就職）	○	○
博士論文（口述試問・審査会） ※論文評価結果は、「論文審査要旨」に記載	◎	◎